

# えいらい

No.54

令和 5 年 1 月発行  
発行元／一般財団法人永頼会 松山市民病院

新年号  
2023



〒790-0067  
愛媛県松山市大手町 2 丁目 6-5  
TEL / 089-943-1151  
FAX / 089-947-0026  
発行責任者／理事長 山本祐司  
編集／松山市民病院広報委員会

## 今号のトピックス

- ◇ 年頭挨拶
- ◇ 臨床の現場から
- ◇ 災害への備え
- ◇ 災害研修を終えて
- ◇ コロナ禍における臨床検査技師の役割
- ◇ The Generalist: 事務部
- ◇ リハビリ step by step
- ◇ ボランティア「白鷺」通信
- ◇ 連携医療機関の紹介
- ◇ 仕事疲れの特効薬
- ◇ お知らせ

撮影：臨床検査室 / 赤松 紀代 (東温市 白猪の滝)

## 年頭挨拶 ー 飛躍の年にー

院長 柚木 茂



2023 年（令和 5 年）謹んで新年のご挨拶を申し上げます。松山市民病院と連携、交流をいただいている医療機関・施設および地域住民の皆様には日頃よりご支援とご指導をいただき心より感謝いたします。

昨年、プロ野球界では歴史的な大記録が誕生しました。日本では東京ヤクルトスワローズの村上選手が王貞治さんの持つ日本選手シーズン最多本塁打記録を更新し、最年少で令和初の 3 冠王になりました。アメリカでは大谷翔平選手が 1918 年にベーブ・ルースが達成した 13 勝を上回る 14 勝目を挙げ、投球回数、打席数ともに規定数を超えるという快挙を達成しました。また、サッカーでは 2022FIFA ワールドカップでの日本の活躍に皆が感動し、気持ちに活力を与えてくれました。いずれも新しい世代の飛躍が期待できる出来事でした。

当院は昨年、中期目標を「地域住民のために急性期医療と各科の専門性を活かした高度医療を目指す」とし

て多くの取り組みをしてまいりました。

救急医療では救急輪番病院の責務を果たしながら、コロナ感染者を救急日にも受け入れ、感染者の緊急手術にも対応するようになりました。各科の専門性を活かした取り組みとしては、血管造影装置の導入や、脳卒中ホットラインの開設など急性期脳疾患の治療を充実させました。また、大規模災害に備え、院外講師を招いての災害研修、災害対策委員会主催の防災訓練を行い、災害時の事業継続についての見直しを行うなど地域の皆様の安心に貢献できたと考えています。

今年は卯年です。卯（ウサギ）は穏やかで温厚な性質であることから「温厚・安心」、その飛躍する姿から「飛躍・向上」を象徴する動物として親しまれています。卯年は穏やかな気持ちを持ちながら、新しいことに挑戦する「飛躍」の年になると思います。

当院が「飛躍」するために、今年は 3 つの目標を掲げたいと思います。

1) 各科の専門性を活かした高度医療を目指すために、医療機器導入の検討等さらなる設備の充実を目指します。

2) 地域の発展に貢献する病院として、病院の特徴を活かした講演会の開催や、地域の様々な施設に出向き、当院で培った知識を地域施設と共有する機会を積極的に設けます。

3) デジタル化推進の一環として、サイバーセキュリティ対策、マイナンバーカードと健康保険証一体化への対応など、患者さんの利便性を高めていきます。

新型コロナウイルス感染症の収束は見えませんが、地域の皆様に信頼される急性期病院として、さらなる飛躍を目指し、地域の発展に貢献できるよう努力していきたいと考えています。

本年が皆様にとっても、飛躍の年となりますことを祈念しまして、新年のご挨拶とさせていただきます。今後とも皆様のご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。